日本経済の基礎知識

第5版

金森久雄

中央経済社

金森久雄

日本経済の基礎知識〈第5版〉

中央経済社

日本経済の基礎知識 第5版

〈著者略歴〉 金森久雄（かなもり　ひさお）

1924年　東京に生まれる
1948年　東京大学法学部政治学科卒業
1948年　商工省（現在の通産省）入省
1953年　経済審議庁（現在の経済企画庁）へ出向
1958—60年　英国オックスフォード大学ナッフィールド・カレジ留学
1964—67年　経済企画庁調査局内国調査課長
1967—70年　日本経済研究センター主任研究員
1970—73年　経済企画庁経済研究所次長
1973—87年　日本経済研究センター理事長
1987年　日本経済研究センター会長

主要著書
「日本の貿易」（至誠堂）1961年
「経済成長の話」（日本経済新聞社）1962年
「日本経済をどうみるか」（同　上）1967年
「成長活用の経済」（東洋経済新報社）1975年
「入門日本経済」（中央経済社）1977年
「金森久雄の日本経済講義」（日本経済新聞社）1979年
「経済を見る眼」（東洋経済新報社）1980年
「日本経済の見方」（中央経済社）1981年
「日本の景気予測」（中央経済社）1982年
「ダイナミクス・日本経済」（中央経済社）1985年

現住所　東京都豊島区南大塚2—4—5　〒170

1982年12月1日　初版発行
1984年4月20日　第2版第1刷発行
1987年5月15日　第3版第1刷発行
1989年4月25日　第4版第1刷発行
1991年6月20日　第5版第1刷発行

著者　金森久雄
発行者　山本時男
発行所　(株)中央経済社
〒101　東京都千代田区神田神保町 1—31—2
電話　03(3293)3371(編集部)
　　03(3293)3381(営業部)
振替口座　東京 0—8432
印刷／厚徳社
製本／誠製本

©1991
Printed in Japan

頁の「欠落」や「順序違い」などがありましたらお取り替えいたしますので小社営業部までご送付ください。（送料小社負担）

ISBN4-502-61121-2 C1033

はしがき

シェクスピアのマクベスを読むと不思議に思うことがある。スコットランドのマクベスという将軍が、ノルウェーを打ち破って赫々たる戦功をたてて帰国するが、すぐに王様を殺して、代って王位につく。しかし反逆成功の瞬間から良心と不安に悩まされ、いろいろ悲惨な苦しみを経た後に王の子供に討たれて死ぬという話であるが、わからないのは何故、武勲に輝く将軍マクベスがそんな馬鹿なことをしたかという点である。マクベスに野心があったことは勿論である。またマクベス夫人というのが大変な悪妻で、迷っている夫をけしかけて王様を殺させる。

私はこの劇を見るたびに、このような妻をもったマクベスに同情するのであるが、シェクスピアは、それだけでは王様殺しの十分な理由とは思わなかったのだろう。劇の第一幕・第一場に、雷鳴と稲妻をバックにして三人の魔女を登場させている。この魔女どもが、背後から暗示をかけて、マクベスに恐ろしい罪をおかさせ、彼を破滅させたのである。何か人間以外の力が人の運命をあやつっているといわなければ、当時の観客もどうしてこんな悲劇がおきるのか納得しなかったのではないだろうか。

シェクスピアがこの劇を書いたのは一七世紀の始めであるが、現在でもこのような運命論は人間の心の中に深くしみこんでいるように思う。私の専門である経済学にも運命論的な考え方が少なくない。その典型は、コンドラチェフの理論といわれるものである。

コンドラチェフというのは、一九二〇年代にソ連で活躍した経済学者だが、彼は、資本主義経済には四〇年～五〇年を周期とする波があって、この波にしたがって景気が良くなったり悪くなったりするといったのである。この理論は、戦後は注意する人は居なかったが、一九七〇年に入ってから復活してきた。それは石油危機以後、世界の資本主義国は、アメリカもヨーロッパも低成長とインフレとになやまされるようになったからで、この資本主義経済の危機はコンドラチェフの波の結果だというのである。

コンドラチェフ理論の信奉者は、日本にも、ヨーロッパにも、アメリカにもいる。アメリカで、この説を一番強く主張しているのは、ジョンソン大統領の特別補佐官であったロストウという学者である。ロストウは、一七九〇年、一八四八年、一八九六年、一九三三年と過去四回原材料価格があがり工業国は困難に陥った、一九三三年から四〇年後の一九七三年にも石油危機が生じたが、これは第五回目のコンドラチェフの波がおきていたのだという。そうだとすると、資本主義経済は長期の下降の運命にあり当分回復の見こみなしということになるわけだ。経済の変動が何故おきるか、これはまだ十分に説明できないことだ。歴史的に見て経済に長期の発展期と

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

停滞期とが存在したことは事実である。だからコンドラチェフのような長期循環論の支持者も少なくないのであるが、それでは経済の背後にあって、四〇～五〇年毎に経済を熱したり冷やしたりする魔女がいるのだろうか。私は、この魔女の正体を説明してくれない限り、コンドラチェフ理論などを信用する気にはなれない。

コンドラチェフのような神秘的な運命論は現代人を満足させない。人間の力で運命を変えることができる筈である。こうした新しい考えのもとに生まれてきたのが、ケインズ経済学である。ケインズは、イギリスのケンブリッジ大学の学者であるが、彼は一九三六年に、「雇用・利子および貨幣の一般理論」という本を出して、政策で金利を上下したり、財政支出を増減することによって景気変動を克服できることを示した。景気が悪くなれば、金利を下げて民間の設備投資を活発にしたり、減税で消費を増やしたり、公共投資を拡大したりすることによって需要を増やし、景気をよくすることができる。景気が過熱する時はその逆の政策をとればよいというわけだ。

ケインズ経済学は、その後三〇年以上支配的な学説となった。人間の力によって運命の魔女の息の根を止めたかのように見えた。私も若い頃、イギリスのオックスフォードで経済学を勉強した。私の先生はハロッドという人で、ハロッドはケインズの高弟である。したがって私はケインズの三代目の弟子ということになる。そこで私も、私の先生達の威力で運命論は消滅したと安心

していたのである。

ところが、最近になって世界的に急にケインズ経済学の人気が落ちてきた。そうして前述のようにコンドラチェフが復活してきたのである。これは私にも意外なことであったが、考えてみるとどうもケインズの弟子達は、経済の状況が変っているのに、先生の説を単純にふり回わしすぎたようだ。労働組合が強くなったり、石油が不足するという新しい問題がおきた。そのため、金利を下げ公共投資を増やしても、景気がよくならないで、物価が上がってインフレになってしまったのだ。これではケインズ経済学の信用がおちるのもあたり前である。

しかし、それでは人間はまた運命に屈伏しなければならないのだろうか。世界経済はコンドラチェフの波のままに流されてしまうのだろうか。私はそうは思わない。現実をはっきりとつかみ、新しい条件をとりいれた理論にもとづいた政策で運命を切り開いていくことができると考えている。二一世紀も近いというのにマクベスのように魔女に支配されては情ない。

本書は、今、日本経済が当面している、経済成長、発展、インフレ、財政、経済体制、世界経済との関係、日本の将来等の問題を取り上げている。それらを、運命に身をまかせるのでなく、どのように改善・解決していけばいいかという気持を背後におきながら論じている点に多少特色があるかと思う。

この本の論文の大半は、最初、東洋経済・エコノミスト等に書いたものである。本書に再録す

る時に、大幅に手をいれたが、重複する部分が、ところどころ残っている。読者の寛恕をお願いしたい。再録をゆるされた出版社にお礼申し上げる。

本書は、中央経済社常務取締役山本時男氏と江守真夫氏の勧奨・援助によってはじめてできたものである。厚く感謝したい。

一九八二年十二月

第5版について

本書の初版は一九八二年一二月に出たが、増刷ごとに数字をできるだけ、新しいものに改めてきた。日本経済の変化は激しいので、第5版では数字の訂正だけでなく、本文もかなり改めた。なお数字については、全部にわたる修正は困難なので、章ごとに多少成長率等で違うものが生じた。読者の寛容をお願いしたい。

一九九一年三月

金森久雄

目　次

1　経済学は役に立つか

経済学を身につけるために……2

(一)　私の経済学の流儀・2

(二)　純粋経済学では役に立たない・3

(三)　実感派エコノミストの台頭・4

(四)　〝理論を知って理論にとらわれず〟・5

(五)　経済を考えるための三つの柱・6

(六)　良い本を読むこと・13

2　経済問題の考え方……14

3　エコノミストに必要な素質……17

(一)　実証主義と経験主義・18

(二) 現実に即した理論・19
(三) 政策論的思考・20
(四) 歴史的感覚・20
(五) 一歩先を見る力・21
(六) 頭の働きの速さ・21
(七) 時の問題をみつける感覚・22

2 日本経済の姿をつかむ

1 三つの数字……25
2 成長率……27
3 経済構造……29
4 農業……35
5 鉱業……38
6 製造業……38
(一) 輸送機械・39

(二) 一般機械・電気機械・41
(三) 精密機械・41
(四) 鉄 鋼・41
(五) 化 学・42
(六) 繊維産業・42
(七) 窯 業・43
7 サービス業……44
8 貿易、国際収支……46
(一) 日本の貿易依存度・46
(二) 日本の貿易相手国・48
(三) 貿易外取引・49
(四) 国際収支と為替レート・49
9 労働力……52
10 生活水準……53
11 政府の役割……55

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

12 金融政策……58

3 生産性は何できまるか

1 供給重視経済学とは何か……62
(一) 応援したい二つの理由・65
(二) ゼロ・サム社会・67
2 日本の供給重視経済学の元祖……69
3 米国の生産性決定の諸要因……72
4 日本の高成長は過渡的なものか……75
5 供給重視経済学への提案……78
6 日本経済が裏付けたラッファー理論……80
7 重要な生産性の長期展望……82

4 潜在成長力を探る

1 成長の定義……86

2 日本の成長率はなぜ高い……88
3 需要の役割……92
4 供給力の増大……94
5 弱点の克服……100
6 成長はのぞましいか……101
7 需要と供給のバランス……104
8 日本経済の潜在成長力を探る……105
(一) 成長率低下は一時的か否か・105
(二) 一長一短ある成長力予測法・106
(三) 経験的・歴史的判断が重要・109
(四) 労働・資本・技術とも高い寄与・110
(五) 資本の寄与度は七〇年代より低い・114
(六) 波及効果は大きい技術進歩・114

5 新しいイノベーション時代

1 敗れ去ったイノベーション悲観論……118
2 戦後日本のイノベーション……119
(一) イノベーションの考え方・119
(二) きわめて独得なイノベーション・120
3 シュンペーター説は日本にあてはまるか……123
(一) 日本のイノベーションの特質・123
(二) 「日本株式会社」論は一面の真理をついている・124
4 日本社会の特質とイノベーション……125
(一) 技術進歩率が高いこと・126
(二) マーケットの拡大・126
(三) 家型社会・126
(四) 必要度の高さ・126
(五) 競争の強さ・127

5 日本のイノベーション・マトリックス……127
(一) 新製品・128
(二) 新生産方法・129
(三) 新市場の開拓・131
(四) 新原料・半製品の獲得・132
(五) 新組織・134
(六) 残された課題・136

6 インフレの考え方

1 インフレとは何か……140
(一) インフレ肯定論・140
(二) インフレの四つの害悪・141

2 インフレの原因……143
(一) 需要インフレとコスト・インフレ・145
(二) インフレの社会的原因・147

3 インフレ対策……152
(一) 需要の調整・153
(二) 通貨増発の抑制・155
(三) 所得政策・157
(四) 総合的政策・158
4 日本のインフレ……158
(一) 戦後のインフレ・158
(二) 石油危機以後・162
(三) 狂らんインフレはなぜ止まったか・167
(四) 一九七九年以後・170

7 財政の見方

1 増税か減税か……174
2 安定成長の条件……176
3 減税と消費……178

4 公共投資優先論……180
5 財政赤字問題……181
6 消費奨励論……184
7 子孫負担論……187
8 無駄遣い……188
9 将来の増税……189
10 負の所得税……190
11 不況期の公債依存は世界の常識……191

8 経済体制はどうあるべきか

1 市場経済の勝利……194
(一) 経済のパフォーマンス・195
(二) 思想言論の自由の抑圧・196
(三) 市場経済の改良・197
2 ソ連のペレストロイカ……198

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com